〔峯相記〕文治年中ノ頃、室ノ泊長者ガ家ニ、アサマシキ賤キ老法師一人出來テ、柴ヲ取リ木ヲ切リモテカヅキシテ召仕ハレケリ、

〔新拾遺和歌集九 羈旅〕二品法親王覺助の家の五十首の歌に、旅泊、　大江茂重

友誘ふ室の泊りの朝嵐に聲を帆にあげて出づるふなびと

備前國韓泊

〔源氏物語二十 玉蔓〕川尻といふ所近づきぬ、といふにぞ、すこしいき出づる心地する、例のふなこども、からどまりより川尻をすほどはと、うたふこゑの、なさけなきもあはれに聞ゆ、

周防國室積泊

〔本朝無題詩七 旅館〕於室積泊即事　釋蓮禪

扁艇東行隨汎乎、此津彼泊悉名區、煙郊寺裏轉經侶、野寺有僧、誦法華經文云、水市社前賣卜巫、此泊有古社、稱八幡、別當止住老巫、叩鼓賣卜、往反之舟問安否、仍與燈故云、潮潟暮松青滉瀁、嶺銜曉月白崎嶇、可憐漁釣罪根重、千介萬鱗民戶租、　藤原周光

迢遰歸程太遠乎、誠知都鄙尙殊區、低雲來往纔爲友、渡海安危不信巫、事見本詩若校風波多嶮難、豈如世路甚崎嶇、沙村靜處謁漁叟、借問火田輸幾租、

筑前國葦屋泊

〔本朝無題詩七 旅館〕宿葦屋泊　釋蓮禪

渺邈水行心苦愁、時留今駐罵春風、渡林鶯咽殘花底、阿岫鷗眠落月中、往事難忘雙袖淚、有注浮生彌論一舟夢、自憐自咲染毫記、斯泊三爲往反躬、　藤原周光

唐泊

涉嶮乘危歸思愁、前程早晚達華風、雲帆忽落嵐狂後、水梗遠漂浪激中、江縣綠邊同昔見、家鄉案內入宵夢、數回徑過人知否、西海屢爲遊蕩躬、度々往反此泊。事見于本草

〔筑前國續風土記二十一 志摩郡〕唐泊

今津より一里半西にあり、海邊なり、萬葉集十五卷に、志摩郡韓亭とかけり、むかしは今津に異國